

特 集

令和8年度植物防疫事業の推進

兵庫県農業改良課人と環境にやさしい農業推進班 2

<農業改良課情報>

農薬の安全・適正使用に向けた取り組みについて 4

<試験研究情報>

令和8年度病害虫関係試験研究の取り組み

虫害編及び農薬編 5

病 害 6

<県植防情報>

上程の5議案を可決承認ー第66回通常総会ー 7

新農薬等展示ほ41件の設置が決定 12

<連 載 >

「植物防疫基礎講座」ー 野菜のふしぎー (第29話 パセリの不思議)

永井 耕介 13

ー田畑の草くさー

青深泥・青味泥・水綿（アオミドロ）

ホシミドロ科アオミドロ属に属する緑藻植物の総称。糸状で、多細胞。細胞内の葉緑体がリボン状で螺旋形になっているのが特徴。極めて普通に見られる。湖、池、水田、河川、自宅の庭での金魚鉢やアクアリウムの水槽など、いろいろな水域で見られ、時に大発生する。ぬるぬるした緑色の極めて細い糸状の藻が固まって見える。

糸状になる藻類は一般に「みどろ」と呼ばれる。髪を手入れせずに長く伸ばしている様を「おどろに振り乱し」というが、この「おどろ」から「みどろ」の名が出てきた。「アオミドロ」は、「青」く細い糸状のものが棘（おどろ）髪のように絡まっている様をみて名づけられた。「アオミドロ」そのものは葉緑体を持ち緑色であるが、古来日本には「緑色」という色彩名はなく「青色」であったことから「アオミドロ」となった。

このアオミドロ、淡水の緑藻類であるから食べることもできるはずである。しかも日本在来であり古来より目に付いていたと思われるが、万葉人や平安貴族たちに取り上げられることはなかったようだ。

昭和に入って、歌人土屋文明にこんな歌がある。

青みどろ紅の花にせまる如く 崩れし花のしづみあへなく（ふゆくさ）

「紅の花」は蓮の花である。

因みに、「青みどろ」は夏の季語である。ネットの中にこんな句があった。

夕刻の第2理科室青みどろ

従心を迎えてもなお青みどろ

（健）

令和 8 年度植物防疫事業の推進

本県では、①農業生産の安定、②県民等の食と農を通じた安全の確保を目的として、「病害虫発生予察推進事業」、「農薬安全対策事業」を柱とした植物防疫事業を推進しています。

安全で良質な農産物の安定的な生産・供給、環境と調和した農業の実践を図るため、発生予察情報の提供や環境負荷が小さく効率的な病害虫防除対策を推進するとともに、農薬取締法など関係法令の周知、農薬の適正かつ安全な使用に関する指導・取締りを行います。

《事業の主な内容》

1 病害虫発生予察推進事業

稲・麦・大豆をはじめ、主要な農作物の病害虫の発生状況を調査し、発生時期、発生量を予測して、効率的な防除に役立てるための予察情報を提供するとともに、より適正な防除のため、農作物病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

を WEB 上で公開しています。

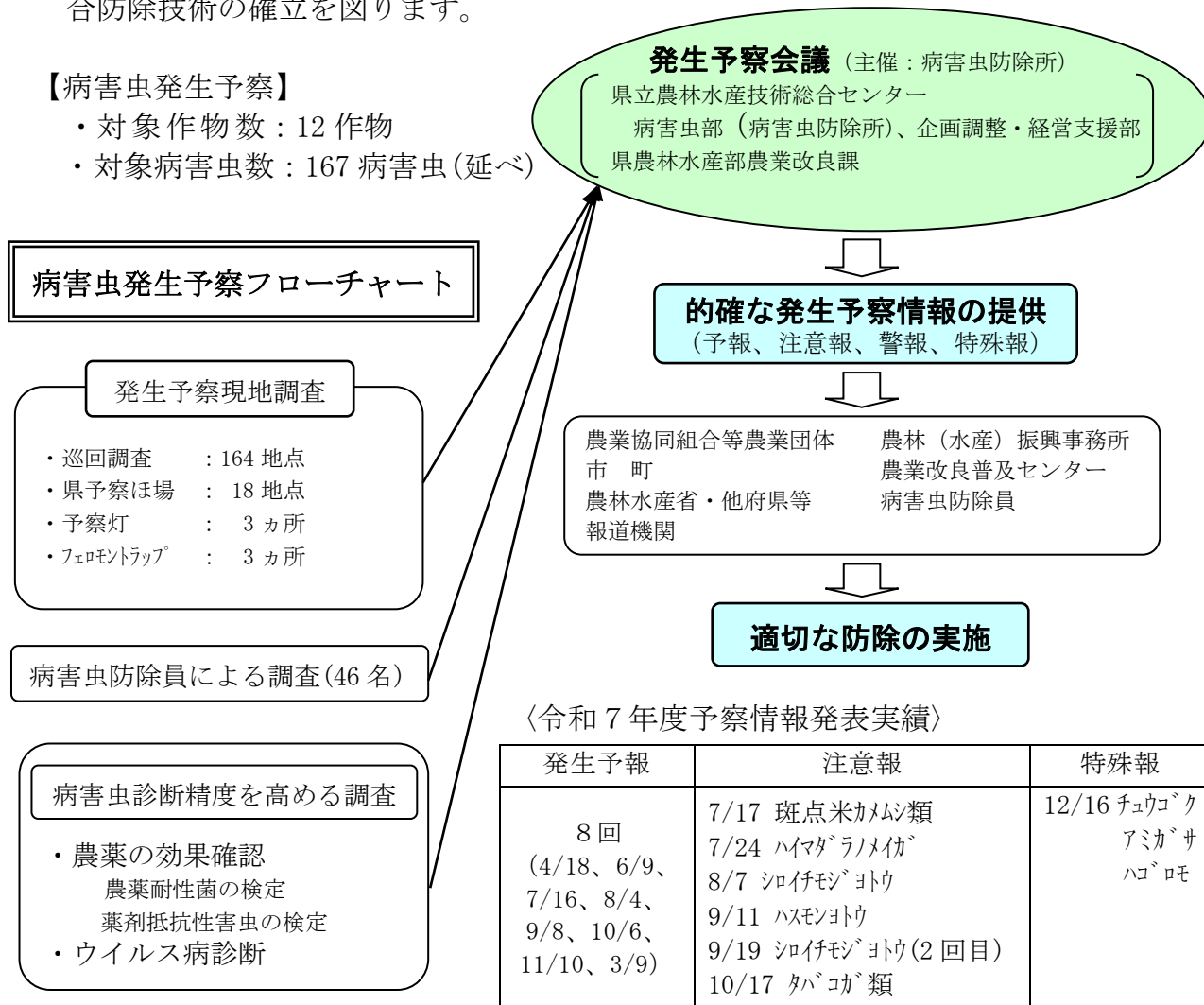


携帯からもアクセス可能

また、化学合成農薬に依存した病害虫防除から、病害虫の発生そのものを予防することに重点を置き、予察情報等により発生を予測した上で、その発生状況に応じて必要な措置を講じる「総合防除」を推進するため、生物的防除(天敵等)、物理的防除(黄色蛍光灯利用等)及び耕種的防除(作期の調整等)等の多様な防除方法の組合せによる総合防除技術の確立を図ります。

【病害虫発生予察】

- ・対象作物数：12 作物
- ・対象病害虫数：167 病害虫(延べ)



2 農薬安全対策事業

農薬の安全かつ適正な使用の徹底を図るため、講習会・研修会の開催や農薬管理指導士の認定、無登録農薬の使用禁止やポジティブリスト制度及び短期暴露評価制度の周知などにより、より一層の農薬使用基準の遵守を推進します。

また、農薬販売者・防除業者・ゴルフ場等への指導・取締りを実施します。

事業名等	事業内容	主な実施地区 または対象等
農薬安全 使用対策	(1) 農薬安全使用技術講習会の開催（オンライン研修）	販売業者、市町、J A、 農薬使用者等
	(2) 産地・生産部会等での農薬安全使用講習指導	県内全域
農薬指導 取締対策	(1) 農薬販売業者等立入指導取締（立入検査約200件）	販売業者数 約2,800販売所 防除業者数 約1,200事業者
	(2) ゴルフ場立入指導（立入検査約30件）	ゴルフ場数 150カ所
	(3) 農薬管理指導士認定研修 認定状況 1,675人(R8.3.31現在)	県内全域

【兵庫県農薬危害防止運動について】

兵庫県では農薬による事故防止等を目的に、農林水産部、保健医療部及び環境部などの緊密な連携のもと「兵庫県農薬危害防止運動」を実施し、農薬使用において遵守すべき事項の周知徹底と農薬の取扱いについての指導を実施します。

実施期間：6月1日～8月31日（6月1日～7月31日は重点月間）

（1）広報活動による啓発宣伝（右図）

ポスター等を活用した広報活動により普及啓発。
運動のテーマは「使用前、周囲よく見てラベル見て」に設定しています。

（2）医療機関との連携

ア 事故者の処置体制

「農薬中毒の症状と治療法」等の資料によって
応急措置等について周知徹底しています。

イ 事故の把握

健康福祉事務所、医療機関などと連携を密にし、
事故状況の把握に努めています。

（3）農薬の取扱いについての指導

農薬販売業者、防除業者、ゴルフ場関係者、
生産者などの農薬使用者に対して、関係法令等
の遵守徹底を図るとともに、販売、保管管理、
使用状況等を検査し、違法行為が発見された場
合は、改善措置を講じます。



令和8年度農薬危害防止運動ポスター

〈農業改良課情報〉

～農薬の安全・適正使用に向けた取り組みについて～

農薬は、農作物を病虫害等から守り、安定した生産を確保するために有効な手段であり、国において安全性の評価を行い、問題ないと判断された農薬のみが登録されています。

一方、使用方法を誤ると、効果が得られないばかりか、人畜、農産物や水域の生活環境動植物等に被害を及ぼすおそれがあります。

このため、農薬による事故を未然に防止するとともに、農薬の適正かつ安全な使用を図り、効率的な防除を推進するため、兵庫県では毎年、農薬安全使用に関する講習会を開催しています。

また、自らが農薬を適正使用するとともに、地域で農薬の取扱いについて指導的役割を果たす人材（農薬管理指導士）を育成するため、認定のための研修と試験を毎年実施しています。

＜農薬安全使用技術講習会＞

農薬に携わる方を対象に農薬の適正使用に関することや、効果的・効率的な農薬の使い方について講習会を実施。受講を容易にするため、令和4年度から動画視聴による受講方法で実施しています。

（令和8年度開催予定）

実施期間：令和8年7月28日（火）～9月3日（木）

受講方法：期間内に講義動画を視聴

受講者数：約100名

＜農薬管理指導士認定特別研修及び認定試験＞

毎年11月下旬～12月上旬に特別研修及び認定試験（2日間）を行い、一定の知識の定着が認められた者を「農薬管理指導士」として認定しています（3年毎に更新が必要）。行政手続きオンライン化の一環として令和5年度からデジタル認定証を発行しています。

（令和8年度特別研修及び認定試験開催予定）

実施時期：令和8年12月15日（火）、16日（水）

開催場所：兵庫県立のじぎく会館（神戸市中央区）

対象者：農薬販売業者、防除業者、ゴルフ場管理者、生産者団体等



令和7年度農薬管理指導士認定特別研修



デジタル認定書

令和８年度病害虫関係試験研究の取り組み

－ 虫害編及び農薬編 －

令和８年度の主な研究内容を下記のとおり紹介します。

１．省力的なＩＰＭを実現する水稻病害虫予報技術の開発（Ｒ４～８）

病害虫の発生予測にメッシュ農業気象データシステムを利用することで、 1km^2 毎の詳細な気象データや予測データが入手できるため、地域毎の病害虫の発生を予測できる可能性がある。水稻病害虫についてメッシュ農業気象データシステムを利用した発生予測モデルの開発が進んでおり、モデルの検証を進めている。昨年に引き続き、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ及びアカスジカスミカメを対象として、水田内での発生消長を把握し、モデルとの整合性について検討する。また、スクミリンゴガイについても、冬期の気象データと水田内の発生密度や被害発生状況との関連を調べる。また、開発中の予測システムの操作性等についても検討を進める。

２．振動を応用した果菜類の新たな受粉促進・害虫抑制技術の開発（Ｒ５～９）

兵庫県ではこれまで、特定の周波数の振動を植物に与えることで、コナジラミ類の密度抑制や作物の受粉促進を可能とする新たな物理的防除手段の確立に取り組んできた。本課題では、コナジラミ類に加え、アザミウマ類やハダニ類等のイチゴ主要害虫への防除効果を検証するとともに、捕虫シート等の併用による総合防除法を確立し、現地実装を目指している。本年度は、イチゴの高設栽培施設において、アザミウマ類・ハダニ類の天敵製剤の体系防除との併用による密度抑制効果を検証する。また、トマトの現地圃場において実証試験を行い、コナジラミ類に対する防除効果や受粉促進効果の検証を行う。

３．リバイバル害虫イネカメムシの生態解明と防除技術の検討（Ｒ７～９）

近年、イネカメムシが全国的に再多発し、兵庫県においても不稔による減収や、斑点米による品質低下が大きな問題となっている。本種の生態については不明な点が多いため、本課題では、水稻栽培環境でのイネカメムシの行動生態や水田での発生生態を明らかにし、薬剤防除や耕種的対策等による効果的な防除対策を確立することを目的とする。本年度は、出穂時期が異なる圃場が混在する地区における発生実態の解明および放虫試験による産卵生態の解明を行う。また、箱施用剤及び粒剤を組み合わせた省力的な薬剤防除体系の検討を行う。

４．水稻における粒剤処理後の水管理が農薬濃度に与える影響（Ｒ８）

水稻において、これまで問題になっていた斑点米カメムシ類に加え、イネカメムシによる加害が収量減少の要因となっている。イネカメムシは出穂期に本田内に飛来し、水稻を吸汁することが知られている。イネカメムシの防除には、粒剤がしばしば用いられ、一定の防除効果が見られている。しかし、処理後どの程度の期間で成分が穂へ移行するかについて詳細なデータがなく、現状では、想定される出穂期に対して、どの時期に粒剤を処理すべきかの判断が難しい。本年度は散布後の水管理方法に着目し、出穂後自然落水を行うことで、稲穂における農薬成分濃度の変動について調査を行い、粒剤の効果的な処理方法について検討する。

（兵庫県立農林水産技術総合センター

農業技術センター病害虫部 西口・柳澤・富原・前田・矢崎

淡路農業技術センター農業部 岩橋）

令和 8 年度病害虫関係試験研究の取り組み

－ 病害編 －

令和 8 年度の主な研究内容を下記のとおり紹介します。

1. 県産タマネギ安定生産に向けた細菌性病害防除技術の開発 (R6～9)

タマネギ生産において、近年、立毛中並びに収穫・貯蔵中に細菌性病害（腐敗病・軟腐病）による腐敗が増加傾向にある。これまでの検討から淡路島のタマネギ産地で発生が見られる細菌性病害は数種類の病原菌種が関与していること、病原菌の種類はタマネギの生育ステージによって変化すること、さらに既存の防除薬剤は細菌の種類によって防除効果に差が見られることが明らかとなった。そこで、加害菌種と最も防除効果の期待できる薬剤を時期別に選定し、新たな防除体系を作成するとともにその効果の検証を行う。さらに薬剤に依存しない防除技術として収穫後圃場の湛水の効果について検討する。

2. 省力的な I P M を実現する水稻病害虫予報技術の開発 (R4～8)

水稻栽培において個々の圃場における病害虫の発生リスクを把握し、適期に効果的に防除する技術が求められている。そこで、水稻病害のうち近年問題となっているもみ枯細菌病について、発生を助長する環境パラメータを接種試験により検討した。試験内で本病は出穂期 2 日程前の豪雨や台風で発病が促進される現象が確認された。そこでポット栽培水稻に対して豪雨を想定した強風・散水を処理し接種試験を行ったところ本現象の再現を確認した。この条件を基に本病の発生時期や量を推定し、ユーザーに適切な防除時期を知らせるスマホアプリの開発を進める。

3. 蒸気を用いた新規水稻種子消毒法による水稻種子伝染性病害防除法の開発 (R4～8)

水稻種子伝染性病害（いもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病及びごま葉枯病）は、これまで化学農薬により発生が抑えられてきた。しかし、ばか苗病の薬剤感受性低下が確認され、実用的に使用可能な化学農薬は 2 剤に限定された。一方、化学農薬を用いない温湯種子消毒は、処理後の種子はぬれた状態にあるため、各病害とも再感染するリスクがある。そこで、この問題を克服し、更に効果が高い種子消毒法として蒸気を用いた新規種子消毒法を開発する。今年度は、前年度に引き続き、実用化に向けた大容量処理の 4 病害の抑制への影響、発芽および初期生育への影響の検討などを実施する。

4. 新たな発病リスク診断に基づく土壌伝染性大豆病害の総合防除技術の開発 (R7～9)

大豆生産において、茎疫病など土壌伝染性大豆病害の被害と開花期の高温乾燥が引き起こす着莢不良による収量低下、品質低下が問題となっている。病害対策では各ほ場の経年的な被害程度の把握が重要である。一方、高温乾燥対策として高頻度の畝間灌水を行うと、滞水により土壌病害を誘発するリスクがあがる。そこで、ドローンセンシングを活用した大豆土壌病害のリスク診断技術の開発および土壌病害を誘発しない灌水方法を検討した。その結果、8 月下旬の植生指数 (NDVI) と発病程度に相関が高いことが判明した。また、頭上灌水は畝間灌水に比べて発病を抑制する可能性が示唆された。センシングの詳細な撮影条件の検討や頭上灌水の発病抑制効果の確認を進める。

（兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター
病害虫部 西口・松本・岩本・村上・山田・矢崎）

上程の5議案を可決承認 －第66回通常総会－

兵庫県植物防疫協会では、7月30日に神戸市中央区の兵庫県農業共済会館において第66回通常総会を開催いたしました。

総会に提出された(1)令和7年度事業報告並びに収支決算、(2)令和8年度事業計画並びに収支予算、(3)令和8年度会費賦課、(4)役員の選任、(5)顧問及び参与の選任、以上5議案はすべて原案どおり承認されました。

令和8年度事業計画並びに収支予算は、次のとおりです。

I 事業計画

1 受託試験事業関係

(1) 新農薬等展示ほ試験

登録農薬の普及推進並びに防除技術の向上を図るとともに、兵庫県における防除指導指針等の参考に供するため、(公財)日本植物調節剤研究協会及び賛助会員から申し込みのあった新農薬等の展示ほを県下各地に設置し、県関係機関の協力により効果試験を行う。

また、その検討会等を賛助会員及び県関係機関の参集のもと、次のとおり開催する。

検 討 会 等	開 催 月 日	開 催 場 所	参集人員
新農薬展示ほ設置打合せ	R 8 年 4 月 13 日	兵庫県農業共済会館	4 4 名
新農薬展示ほ調査成績中間検討会	R 8 年 11 月中旬	兵庫県農業共済会館	5 0 名
新農薬展示ほ調査成績検討会	R 9 年 3 月上旬	兵庫県農業共済会館	5 0 名

(2) 新農薬実用化試験

新規開発農薬の登録に必要な薬効、薬害及び作物残留試料調製試験並びに除草剤・生育調節剤の適応性判定の試験と県内での適応性等を検討するため、(一社)日本植物防疫協会及び(公財)日本植物調節剤研究協会からの委託試験を県関係機関の協力を得て実施する。

2 一般事業関係

(1) 植物防疫に関する研修

ア 農薬管理指導士認定研修会

農薬の適正かつ安全な使用を推進するための認定制度に基づき、兵庫県が開催する農薬管理指導士認定研修会の開催に協力する。

(ア) 時 期 令和8年12月15日・16日の2日間

(イ) 場 所 神戸市 県立のじぎく会館

(ウ) 受講見込 120名

(2) 植物防疫推進表彰

病虫害発生予察、防除対策及び農薬安全使用など植物防疫の推進において功績のあった団体及び個人について表彰してきたが、近年、推薦団体等の減少が続いているため、令和6年度より5年に1度の開催に改めた。次回開催は令和10年度の予定とする。

これにより、表彰に係る候補者調書の提出期間を一定期間設けることができ、表彰点数、表彰内容の充実等を図るものとする。

(3) 植物防疫に関する広報活動

ア 兵庫県植物防疫情報

本県における植物防疫に係る情報を「兵庫県植物防疫情報」として年2回発行する。

(ア) 発行時期 令和8年7月、令和9年3月

(イ) 配布先 会員及び県関係機関（電子メールで配信）

イ 農作物病虫害・雑草防除指導指針

農薬の適正・安全使用を図るため、兵庫県が「農作物病虫害・雑草防除指導指針」をホームページ上で公開している。協会はこの情報収集に積極的に協力する。

3 本協会の経営改善に向けた今後の方針

県植防の試験員の高齢化により、主な収入源である新農薬実用化試験などの受託件数の維持が今後困難な状況にある。

令和6年、7年度は、職員の勤務体系の変更に伴い黒字が続いているが、新たな試験員を確保することが難しく、受託件数が以前に比べて減少し、厳しい運営状況が続くことが予想されるため、令和8年度の予算においても緊縮予算を徹底し、経費節減に努めることとする。

今後は、県植防の事務執行体制の見直しを行い、収入に見合った体制に再編することも視野においた検討も進めることとする。

Ⅱ 令和8年度収支予算書

Ⅰ 収入の部

単位：千円

科 目	予算額	科 目	予算額	科 目	予算額
1 会費収入	2,550	2 事業収入	17,571	4 雑収入	54
正会員会費収入	1,600	展示ほ受託収入	1,804	受取利息収入	44
賛助会員会費収入	950	委託試験受託収入	15,767	雑収入	10
		無人へ受託収入	0		
				当期収入合計	20,420
		3 補助金等収入	245	前期繰越収支差額	10,595
		団体補助金収入	245		
				収入合計	31,015

Ⅱ 支出の部

単位：千円

科 目	予算額	科 目	予算額	科 目	予算額
1 事業費支出	17,152	2 管理費支出	3,266	3 固定資産取得支出	1
給料手当支出	2,800	給料手当支出	1,300	什器備品購入支出	1
会議費支出	163	会議費支出	49		
旅費交通費支出	390	旅費交通費支出	36	4 業務引当金支出	1
通信運搬費支出	38	通信運搬費支出	206	業務引当金繰入支出	1
備用品費支出	282	備用品費支出	65		
印刷製本費支出	110	修繕費支出	1	5 予備費支出	10,595
賃借料支出	1,738	印刷製本費支出	21	予備費支出	10,595
修繕費支出	1	光熱水料費支出	186		
委託費支出	11,600	賃借料支出	555		
雑支出	30	保険料支出	26		
		諸謝金支出	220		
		租税公課支出	526		
		負担金支出	65		
		雑支出	10		
				当期支出合計	31,015

兵庫県植物防疫協会役員等名簿

令和8年7月30日現在

【役員】

役職等名	氏名	所 属
会長理事	荒 木 一 聡	兵庫県農業共済組合 組合長理事
副会長理事	福 本 博 之	兵庫県農業協同組合中央会 代表理事会長
理 事	堂 本 英 之	全国農業協同組合連合会兵庫県本部 本部長
〃	中 前 和 巳	兵庫県信用農業協同組合連合会 常務理事
監 事	伊 藤 聡	公益社団法人ひょうご農林機構 兵庫県農業会議会長
〃	古 川 博 之	兵庫県農薬卸商協同組合 理事長
運営委員	野 並 一 馬	兵庫県農業共済組合 参事
〃	加 藤 武	兵庫県農業協同組合中央会 営農支援部長
〃	桐 山 裕 史	全国農業協同組合連合会兵庫県本部 副本部長
〃	西 村 稔 幸	兵庫県信用農業協同組合連合会 常務理事
〃	堀 川 道 信	公益社団法人ひょうご農林機構 常務理事
〃	山 内 博 司	兵庫県農薬卸商協同組合 専務理事

【顧問・参与】

役職等名	氏名	所 属
顧 問	秋 月 麻 美	兵庫県農林水産部農業改良課長
〃	西 野 勝	兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター所長
参 与	村 田 聡 樹	兵庫県農林水産部農業改良課 人と環境にやさしい農業推進班主幹(植物防疫担当)
〃	松 岡 浩 司	兵庫県立農林水産技術総合センター 次長兼企画調整・経営支援部長
〃	松 浦 克 成	兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター農産園芸部長
〃	望 月 証	兵庫県立農林水産技術総合センター 農業技術センター病害虫部長兼病害虫防除所長

【職員】

役職等名	氏名	所 属
事務局長	池 本 真 人	兵庫県農業共済組合 事業部長
事務局次長	青 野 元 彦	兵庫県農業共済組合 事業部農産課長
事務局次長	林 義 祝	兵庫県農業共済組合 事業部農産課
技術相談役	河 野 哲	兵庫県植物防疫協会
試験調査員	松 本 功	〃
〃	奥 井 宏 幸	〃
〃	森 本 秀 樹	〃
〃	山 田 剛 士	〃
事務局書記	松 尾 利 恵	兵庫県農業共済組合 事業部農産課

※下線部は新任者

兵庫県植物防疫協会賛助会員名簿

アグロ・カネショウ(株)	サンケイ化学(株)	バイエルクロップサイエンス(株)
アリスタライフサイエンス(株)	信越化学工業(株)	BASFジャパン(株)
石原バイオサイエンス(株)	シンジェンタジャパン(株)	北興化学工業(株)
井上石灰工業(株)	住友化学(株)	丸和バイオケミカル(株)
(株)エス・ディー・エスバイオテック	コルテバ・アグリサイエンス日本(株)	三井化学クロップ & ライフソリューション(株)
OATアグリオ(株)	日産化学(株)	米澤化学(株)
科 研 製 薬 (株)	日本化薬(株)	エフエムシー・ケミカルズ(株)
協 友 ア グ リ (株)	日本曹達(株)	(一社) 日本植物防疫協会
クミアイ化学工業(株)	日本農薬(株)	

兵庫県植物防疫関係者について（令和8年7月1日現在）

このたびの定期人事異動により植物防疫関係者は次のとおりとなりました。
今後ともよろしくお願いいたします。

1 兵庫県農業改良普及センター植物防疫担当者

神戸	山口 雄也	龍野
〃	堀 浩太郎	豊岡
阪神	内田 遥和	新温泉
加古川	藤川 淳平	朝来
加西	島谷 優里	丹波
姫路	木谷 菜々香	南淡路
光都	深田 準之助	北淡路
〃	岸 麻理奈	

2 兵庫県農林水産部農業改良課人と環境にやさしい農業推進班

主 幹	村田 聡 樹
主 査	本田 理

3 兵庫県立農林水産技術総合センター企画調整・経営支援部

専門技術員	九村 俊 幸
〃	戸田 一 也

4 兵庫県植物防疫協会

事務局 長	池 本 真 人
事務局次長	青 野 元 彦
事務局次長	林 義 祝
事務局書記	松 尾 利 恵

新農薬等展示ほ 4 1 件の設置が決定

令和 8 年 4 月 1 3 日（金）に、神戸市の農業共済会館において、県農業改良課、県立農林水産技術総合センター、農業改良普及センターおよび正会員である J A 全農兵庫、県農薬卸商組合、県植防賛助会員に参集いただき、「令和 8 年度新農薬等展示ほ設置打合せ会」を開催しました。

本年度の展示ほ設置状況は、除草剤関係が 1 7 件で昨年度より 3 件減少しました。殺虫剤関係は、1 3 件で昨年度より 8 件減少しました。殺菌剤関係は、9 件で昨年度より 4 件増加しました。混合剤等は、2 件で昨年度より 5 件減少しました。その結果、本年度は合計で 4 1 件の展示ほ設置件数となりました。

令和 8 年度 新農薬等展示ほ設置状況

	除草剤	殺虫剤	殺菌剤	混合剤等	合計		除草剤	殺虫剤	殺菌剤	混合剤等	合計
神戸		2			2	新温泉			1		1
阪神	1	1	1		3	朝来	2			1	3
加古川	1		1		2	丹波	1	2			3
加西	2	1	2		5	南淡路		1			1
姫路					0	北淡路		3	1		4
光都			1		1	兵植防	10		1	1	12
龍野					0						
豊岡		3	1		4	合計	17	13	9	2	41

野菜のふしぎ



— 第29話 パセリの不思議 —

農学博士 永井耕介

「パセリ」は春の七草の1つであるセリの仲間（セリ科）の2年草です。原産地（地球に初めてお目見えした場所）は地中海沿岸です。古代ローマ時代から様々な料理に用いられており、パセリは世界で最も多く使われているハーブ野菜の一つです。欧州で食されているパセリの主流は葉に縮れのないもので、我が国で主に使われている「縮れパセリ」は後に品種改良で誕生したものなのです。

ここで、謎かけを1つ。『「食卓のパセリ」とかけて「大相撲の熱戦」と解きます。そのころは「ノコッタ（残った）」』。そうなのです。パセリは鮮やかな緑色でちぢれ葉は見た目にも美しいので、日本ではもっぱら料理の彩りとして広く用いられています。でも多くの人はパセリを食べずに残してしまいますよね。

栄養価・健康機能性の高いパセリ

パセリは栄養価が極めて高い野菜です。 β カロチン、ビタミン B1,B2,C など多くのビタミン類を含み、カルシウム、カリウム、鉄などのミネラル類も野菜の中でも特に多いのです。他にも食物繊維を豊富に含んでいます。パセリは真に栄養リッチな野菜なのです。

パセリの鮮やかな緑は β カロチンの黄色と葉緑素の緑色が合体したものなのです。 β カロチンには体内の活性酸素を除去する働きがあり、血中の脂質の酸化を防ぎ、血管を若々しく保つ効果が期待できます。また、葉緑素（クロロフィル）には血液中の悪玉コレステロール（LDL）を低下させ、同時に善玉コレステロール（HDL）を増やす効果があるので、血液がサラサラになり、動脈硬化を予防する効果が期待できます。

ビタミン C はコラーゲンの生成を促進し、肌のハリを保つ効果があり、しわの予防や改善に役立ちます。その上、ビタミン C には紫外線によって発生した活性酸素を無効化する働きがあり、肌のメラニン色素の発生を抑制する効果が期待できるのです。

ミネラルのカリウムには余分なナトリウムを血管外に放出する働きがあり、高血圧を予防する効果が期待できます。また、鉄はヘモグロビンの材料となるミネラルで、鉄が不足すると血中のヘモグロビンが不足し、貧血状態になります。パセリには鉄の吸収を高めるビタミン C も豊富に含まれているので、貧血の予防や改善効果が高いのです。

パセリに含まれる香り成分ピネンには適度に胃を刺激し、消化を促す効果があります。ピネンはマツから発見された精油成分で、針葉樹に多く含まれています。また、アピオールという芳香成分には食欲を増進させる働きがあり、夏バテ予防の効果が期待できます。その上、ピネンとアピオールには口内の雑菌の繁殖を抑えることにより、口臭を少なくする効果があるのです。

保存方法と食味向上対策

パセリの保存方法をご存じでしょうか。ポリ袋にいれれば冷蔵庫の野菜室で 2～4 日間保存できます。水を入れた容器に挿せば、冷蔵庫で 1 週間程度は品質の良い状態を保てます。

パセリを美味しくする方法はご存じでしょうか。縮れパセリが敬遠されるのは、細胞が密集していて食感が硬いからです。それで、フライパンの強火で約 30 秒炒めるだけで、細胞膜が破壊され、細胞が軟らかくなるので、食感は驚くほど良くなります。お試しください。

これからは身体の健康に優しいパセリは、お皿に残さずに食べてしまいたいですね。



(元兵庫県立農林水産技術総合センター 北部農業技術センター 農業加工流通部長)

【編集後記】

今年度の植防情報 No.1 をお届けいたします。

異常気象の昨今、5月から台風が何個も通過しており、台風は夏の終わりのものだったと思うのですが…。台風の発生が例年より早くまた、3倍近くの多さで発生している現状、台風の影響で梅雨前線が活発になり「線状降水帯」が発生、局所的に長時間にわたり豪雨をもたらす現象が発生し、各地に様々な被害をもたらしました。梅雨明けも記録史上4番目に早く、猛暑？酷暑？が続く日々で、朝晩も気温が下がらず厳しい夏となっております。全てが地球温暖化が原因といわれ、日本の情緒・風情を感じる四季もなく、二季といってもいいような現状です。

自然の異常な変化に加え、世界情勢も困惑することばかりで日本経済にも波紋が広がり、物価高騰に拍車がかかり家計は逼迫するばかりです。消費税「0」の実現もなかなか進まず、何を信じて、何を頼りにしていいのか…、不安は増すばかりです。

そんな住みづらい世の中でも、サッカーワールドカップでは日本代表選手が底力を見せてくれて、怪我で離脱する選手もいる中、チーム一丸となり頑張っている姿に勇気づけられました。結果は期待通りではなかったものの、十分に健闘したと感じさせ、結果は出せると信じて取り組む彼らの姿勢を見習って、何事にも行動したいものです。

皆様には心身ともに十分にご自愛なされまして、お互いにこの酷暑、そしてこの時代を乗り越えていければと思います。

今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

(M)

兵庫県植物防疫協会 今後の予定

令和8年

11月9日(月)

新農薬展示ほ調査成績中間検討会

兵庫県農業共済会館

発行元

兵庫県植物防疫協会

神戸市中央区下山手通 4-15-3

TEL 078-332-7144

FAX 078-332-7152

e-Mail hyogo-syokubo@mountain.ocn.ne.jp

